

福島県のいま ～復興の現状と廃炉～



← 2018年11月にオープンした東京電力廃炉資料館
(双葉郡・富岡町)

2019年4月に完全再開した日本最大規模のスポーツ
複合施設 J ヴィレッジ (双葉郡・楢葉町) →



11月下旬の研修視察で本校の教員3名が福島県を訪れました。政府が公算した福島第一原子力発電所の廃炉期間や費用も、専門家の間では「もったかるのでは？」との意見があるようです。いまを生きる私たちにとって、事故のあとの福島県からどのような社会的課題が残されているか考えなければいけません。

○国語科 今村先生

「福島」は、何とか立ち上がり希望をつかみとろうとしている、深く傷ついた「人」のようでした。世界に例を見ない「巨大地震・津波と原発事故の複合被害」がどのようなものを目の当たりにしました。これからの福島と日本に、この経験をどう生かすかを考え、動き始めている人たちに会いました。学ぶことによって人生を切りひらいていった野口英世を生んだ教育県福島らしい取り組みを見ました。夕食前ぎりぎりまで「見ること・知ること・勉強すること」が詰まった3泊4日でした。



○数学科 荒井先生

幕末が大好きな私にとって、是非とも行きたかった会津若松城を見て感極まりました。ここで、新撰組が……。白虎隊が……。と思うと胸が熱くなりました。原発区域にも行きましたが、東日本大震災の悲惨な状態のままで、いまだに故郷に帰れていない人は3万2000人います。県をあげて復興しようとする福島県民のパワーに感銘を受けました。



○社会科 奥野先生

生の福島を見て勉強になった点を2点挙げます。1点目は、震災の影響の色濃く残る一部地域と、それ以外の地域の差を見ることができたことです。福島第一原発の近隣地域は報道で見た、まさに震災で大きな被害を受けた福島の姿が未だ残っていました。しかし、それ以外の地域では、震災の影響など全く感じない街並みが広がっていました。2点目は、震災・原子力学習のための施設・プログラムが充実していることです。東京電力廃炉資料館や浪江町のフィールドワークなど、学習の場を確立させようという福島県の力の入れ具合を強く感じました。



防災食品の試食会を実施しました!!

11月19日の昼休みに、防災用の備蓄食品の試食会をしました。(株)トーヨーフーズさま、(株)尾西食品さまから提供された缶詰スイーツやアルファ米を初めて食べた生徒たちの感想を載せます。

※ トーヨーフーズさま

この度は、試食品をお送り頂き有難うございました。缶詰の食べ物のイメージとは全く違い、味もとても美味しかったです。ケーキを災害時に食べると、少しでも心が温まると思いました。甘すぎず食べやすい味でした。(高2 K・M)



子どもが食べやすそうな食品でよかったですと思います。(高2 T・S)

防災食品を食べたとき、お皿、フォークは必要不可欠でした。防災グッズにそれらのものを入れておかないとダメなのかなと感じました。食品はすべて美味しく頂きました。カップケーキがいちばん美味しかったです。取り出すのが難しかったです。(高2 M・I)



防災食で甘いものは知らなかったの、面白いなと思いました。また、何かあっても食べ物が限られている時に、甘いものが食べられるのはうれしいと思います。ただ、水分が少なくてのどが渇いてしまうというのが気になりました。(高2 K・W)

缶詰を開けるのに苦労しました。被災した時に包丁や缶切りのような道具がない可能性もあるので、缶でない商品もあったほうが良いと思いました。(高2 W・M)

※ 尾西食品さま

2つともとても食べやすく味もしっかりしていたので、とても良かったと思います。わかめご飯やドライカレーの袋にスプーンをつけておくと、外でもすぐに食べることが出来るので便利だと思います。試食会を通して、食の大切さを改めて学ぶことが出来ました。(中1 S・M)



尾西食品様のアルファ米シリーズのわかめご飯とドライカレーを試食させていただいて、防災食とは思えない味の美味しさに驚きました。災害時にでも、食によって幸せを得るのに必要な、と思いました。(中2 U・H)

ドライカレーは、味が薄くて食べやすかったです。好き嫌いが分かれにくいと思いました。早く食べられるので、いいと思いました。(中2 A・Y)

わたしがいくつか頂いて美味しかったと思ったのは、ドライカレーです。本当のドライカレーと同じくらい美味しかったです。災害の時でも、普段と同じようなご飯が食べられ、良いと思いました。(中2 M・A)

緊急時に食べられるものが、こんなに美味しいとは思いませんでした。水でもお湯でもつくれるというのが、火が使えない状況下におかれた場合でも便利だと思いました。(高2 O・H)